

水回りに残る 白い水垢は、 カルキじゃない。

自

然の恵みをそのまま残した水は、ミネラルが豊富でおいしく、健康にも良い反面、蒸発した後に残る白い水垢が気になります。小諸市では特によく目にする光景です。

この白い水垢のことを「カルキ」と呼ぶ方もいらっしゃいますが、正確にはカルキとは異なります。これらは、「蒸発残留物」と呼ばれ、水が蒸発する際に水に含まれるカルシウム等が残り固まったもので、ミネラルが豊富なためにおきる現象です。

では、なぜ「カルキ」という呼び方が普及したのでしょうか？

みずあか

カルキとは、本来次亜塩素酸カルシウムのことを指す言葉です。次亜塩素酸カルシウムは、ドイツ語で「クロールカルキ」といわれることから、日本では略称であるカルキという名称で呼ばれています。

古くは水道水の消毒にも使用されていたことがあるようですが、水に溶けにくい性質のため、現在は次亜塩素酸ナトリウムという水溶性の消毒剤を使用しています。次亜塩素酸カルシウムは、現在でもプールの消毒剤などに使用されています。塩素臭のことを「カルキ臭」と呼ぶことから転じて「消毒するもの」「カルキ」というイメージが定着

したようです。さらには、次亜塩素酸カルシウムは白い固形物ですので、色や形が似ているという理由で蒸発残留物までカルキと呼ぶようになったと推測されます。

ここまでの説明からは、蒸発残留物は塩素消毒された水道水でしか発生しないイメージを持たれるかもしれませんが、実際はほとんどの水でも発生します。井戸水にも雨水にも海水にもミネラルは含まれますので、それらの水が蒸発することによってミネラルが蒸発残留物として残るためです。車の窓ガラスやボディに同様の白い水垢が付くことがありますが、これは雨水

や洗車の際に拭き残した水から発生した蒸発残留物です（ウォータースポットとも呼ばれます）。このような水垢を残さないようにするためには、付着した水が蒸発してしまいう前に、ミネラルごと水分をふき取ることが必要です。

水垢の跡
水分が蒸発し、ミネラル分が固まって白くなる。



[今月の表紙]

柏木水源



小諸市の自主水源の中でも、浅間山寄りに位置する「柏木水源」。浅間南麓の恩恵を受けた水の硬度は、市内随一の 228mg/ℓ（平成 30 年度水質検査実績）を誇る。